

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491-2		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193300015&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①四季に応じ、タクシー利用で昼食会を兼ねた外出を行っている。 ②演芸会、施設内の昼食会の時は、家族、地域の方々と一緒に過ごす機会を作っている。 ③日々の暮らしや生活リハビリの様子を写真にして掲示し、それを繰り返し見て話題にしたり、歩行練習の場としたりして利用している。 ④慣れ親しんだ食材での食事内容、リクエストメニューのおやつ作りなどを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者全員が地元の人である。ホームは廃校になった元小学校であり、利用者の中には卒業生もいる。同窓生が地元に戻れば、学び舎であるホームに立ち寄り、子どもの頃の思い出話を、利用者と一緒に語り合っている。職員は、「自分の親を入れたい、自分が入りたい」ホームを目指して日々研修し、質の高いケアに取り組んでいる。地域の住民が日々気楽に訪問し、福祉拠点的な存在でもある。利用者本位のケア方針を、全職員が常に意識し、利用者が満足して穏かに暮らせるように、優しさのあふれるケアを行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく余生を過ごしたい」「やりたい事をわがままと捉えずサポートしたい」という理念の基に自分の家で生活していると思われる様な家庭的なホームを目指し日々取り組んでいる。	理念は、毎朝のミーティングで確認し、共有している。また、月に1回、理念を具体化し、意識して取り組むための学習が行われている。住み慣れた地域で、地域の住民として、安心した生活が送れるケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入会し出来る限りの範囲で参加を行っており、ホームのイベント、推進会議、家族会、避難訓練等のも参加を願い交流を図っている。	自治会に加入し、地域情報を得て地域活動に参加している。隣接のホールを、スポーツや趣味の団体に開放し、日常的に交流している。災害時には、地域と相互に協力できる関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の行事等に気軽に参加訪問して頂く事で認知症の理解してもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況の報告や情報交換で留まる事が多いため、改善課題を明確にし話し合うことで、サービスの向上に活かせる会議を今後の課題としたい。出来る限り、多くの方々に出席して頂く様今後も声かけていく。	会議は、隔月に開催し、行政・民生委員・地域代表・家族が参加している。運営報告と改善課題を取り上げ話し合っている。外部評価の改善点も検討し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の状況を報告したり、相談に乗って頂いたり、又協議会、市主催の勉強会には積極的に参加し、連帯 協力関係に努めている。	法改正等の指導を受けたり、情報の交換をしている。行政主催の研修会、交流会には積極的に参加している。補助金申請や困難事例等では、助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員同志の意見交換を行い、拘束をしないケアに取り組んでいるが、危険を防ぐ対処法として家族の意向、書面作成にて一時的に行う事もある。	身体拘束ゼロのマニュアルを基に、拘束のないケアを実践している。危険回避のため、やむを得ない場合は、家族と同意書を交わしている。玄関から利用者が外出する場合も、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、虐待防止について学び、職員間の情報交換において、見過ごしを防いでいる。特に言葉使い等、責任ある言動に取り組んでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修時に触れているが、まだまだ理解を得るまでには至っていない。今後、外部研修において学ぶ機会を設け取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部料金改定時には、本社より再契約確認をしている。新規契約時には、個々の消耗品の支払い方法等、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、訪問者記録等にて、御家族、入居者の意見、気持ち、思いを大切にしながらミーティングで話し合い、ケアに活かせる様努めている。	家族の訪問時や年1回の家族会で、意見・要望を聞いている。家族からは、重度化や終末期対応について懸念する意見があり、ホームの方針を丁寧に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月例ミーティングにて、職員の思い、考え、意見の交換をして改善すべき点は、早急に話し合っている。	管理者は、定例の会議で、職員の意見を聞いている。職員からは、合理的な排泄ケアの方法が提案され、改善している。また、職員の健康診断、予防接種の費用負担の意見もある。意見・提案事項は、代表者に報告し、出来るものから改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休日には配慮している。個別の聞き取りも行い随時行い、把握にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次、研修にも参加し、資格取得に対しても応援体制にあり職員も意欲的である。内部研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会、ケアマネ会議等で交流を図っているが、他施設見学、研修でのネットワーク作り等に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者一人一人に対し毎日の会話を増やし本人の気持ち・訴えを理解し受け止めるよう納得されるまでゆっくり聞き安心して過ごしていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、思いを受け止め可能な限り要望に沿えるよう、家族との信頼関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談しながら、その場面に応じた支援やサービスのアドバイス、紹介ができるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々ができる事、又得意分野を生かしお互いに信頼できる関係を築き共に学び合い支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	無理のないところで面会に来ていただく様お願いしたり、ケアプラン見直し時、たより、電話連絡時など可能な限りホームでの様子を伝え、情報が途切れない様に努め、いつも関係を持っている状況作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問は歓迎しているが、場所的に外出は難しく家族等に依頼することもある為、手紙での交流をすすめていたりしている。又行事には地域の方の協力もあり、その都度交流が出来る様馴染みとなっている。	地域の高齢者が、気楽に訪れている。地元の警察官、郵便局員、新聞配達員、社会福祉協議会の委員とも挨拶を交わし、時にはホームで休んでもらっている。近くの寺や神社も馴染みの場所であり、時々訪れ、関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に作業したり、それぞれ得意な事を見つけて出し、入居者同士が関わり合い協力して出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしぶり等の情報を伝え、その日から本人が戸惑われないように継続的なケアが受けられる様支援している。又、いつでも相談していただけるような、関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族在宅時のケアマネさんより、情報を聞き本人の歩んできた人生、入所前の生活等も重視して、その人らしさを失わず生活していける様努めている。	利用者一人ひとりの日常の場面で、言動や表情から思いを把握している。困難な場合は、傍に寄り添い、穏かな笑顔を引き出している。優しく、ゆとりを持ち、その人らしさを大切にしたケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より入居前の生活環境、生い立ち等、聞き取りを行っている。入居後も会話の中からや、面会時の方のお話から聞き取りサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活スタイル、職員との会話や心身状態等を介護記録に残す事で職員間で情報を共有し把握できるようにしている。又、ほぼ毎日行っているミニミーティングでも情報を伝えあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回必要時は、その都度モニタリング・ケア会議を行い家族・本人・主治医の意見も参考にしながら計画作成に当たっている。面会票にも記入欄を作り家族が伝えやすいような工夫を行っている。	定例のケア会議で、介護記録を検証している。本人・家族の意見や協力医等の意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。本人の状態を観察しながら必要に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の日課表を毎日午前・午後・夜間と記録し職員間で情報を共有したうえで日々のミーティング等で意見交換し日頃のケアに活かし又、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに沿った支援(散歩・畑作業・山菜採り・・・)を心がけているが地域柄困難な面もある。又、誕生会では本人の希望するメニューに応えたりして取り組んでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベントには全員で掃除、準備等に取り組み盛り上げている。地域のバラ園に出かけたり、庭での「流しそうめん」と地域の方との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の確認、把握を行っている。ホームでは隔週にて提携医の往診を行っている。歯科では法人代表が歯科医である為、受診必要等把握し、かかりつけ歯科医へつないでいる。	契約時に、かかりつけ医の説明をし、個々の選択にゆだねている。協力医による隔週の往診があり、全員受診している。他の病院への受診支援は、原則、家族の役割りになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には看護師が勤務しており、常に情報を交換し、個々の利用者が適切な受診や介護を受けられる様、相談しながらケアに当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院と常に情報交換に努め状態把握を行っている。地域の連携室との関係も持ち退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る事、出来ない事を事前に家族に説明し、意向を確認しながら対応している。主治医からは、利用者の状態、変化時には説明を受ける機会を設けている。	重度化や終末期におけるホームの方針は、利用開始時に、文書により家族に説明し、同意書を交わしている。常に医療行為が必要になった場合は、家族、医師、関係者が検討し、方向を決めている。終末期に向けての対応も「ホームでできることの限界を」を事前に家族に説明する機会を設けている。	家族とは同意書を交わしているが、ホームを終の棲家としたい家族の希望とホームの方針には、大きな差があるため、今後も、話し合いの積み重ねに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予測出来る急変に対しては、職員間で、情報を共有しながら、落ち着いて対応出来る様に取り組んでいる。事故の対応、対処については定期的に勉強会を行っている。今後も続け、増やしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、通報訓練、避難誘導、地震に対する対処等を行い、地域の方、民生委員、行政の方々の参加、協力をして頂いている。	消防署の協力を得て、年2回の避難誘導訓練を実施している。同時に、通報訓練、地震対策も、住民、民生委員や行政が参加して、実施している。備蓄等も、日常より、賞味期限等を管理し、整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング、内部研修等にて尊厳を大切に した言葉使いや対応について話し合う機会 を積極的に設けている。プライバシー確保に ついても、基本的な事に基づき、日々確認す るようにしている。	馴れ合いから言葉の乱れ等が生じないように、 常に気配りしている。人生の先輩として、誇りや プライバシーを損ねない言葉かけをするように、 内部研修等で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定出来る様取り 組んでいる。職員の思いを押し付けない様、 気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をど のように過ごしたいか、希望にそって支援 している	一人ひとりのペース、その時の体調を確認し た上での生活、「したい」「したくない」と言っ た思いに合わせたケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	本人、家族の希望に沿った理容、美容に努 めている。日々の生活の中での服装は、排 泄行動がしやすい事に配慮し、本人らしさを 大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニュー書きをして頂き、その日の食 事を楽しみなものにもらっている。下準備、 下膳の分担などを職員と一緒に取り組んで いる。	広い庭で季節の野菜を育て、収穫を喜び、メ ニューに取り入れ、食材を話題にしながら、にぎ やかに食事している。配膳、下膳を利用者が手 伝い、職員も同じものを食べ、調理方法などを 利用者から学んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量の把握、体重管理を行い、栄 養状態をみる目安にしている。食事は管理 栄養士が立てた献立を利用し、カロリーバラ ンスは取れている。きざみ、とろみ、おかゆ 等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	毎食後のみがきは一人ひとりに応じた見 守り、言葉かけを行い継続している。義歯洗 浄、洗面器等の消毒、清掃も日を決め実施 している。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行ない、夜間においても同様にしている事で少しでも、パット類の使用量を減らすにも工夫している。	利用者に合わせ、昼間も夜間も、出来る限りトイレ誘導をすることを、職員間で意識づけ、自立を支援している。オムツの使用量を減らすために、こまめな誘導を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取回数を多くしたり、食事内容の工夫、体操、歩行練習といった体を動かす等を行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時までは中々合わす事が出来ないのが、現状だが、入浴の際はゆっくり語らいの時間を持つ様にして頂き、くつろぎの時間が持てる様にしている。	入浴は週に2回行い、利用者の健康状態に合わせて入浴介助をしている。広い浴槽に、地元産のリンゴを入れ、温泉気分を楽しんでいる。入浴を好まない人は、シャワー浴や足浴も組み合わせ、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は、いつでも横になったり、休んで頂けるように様にしている。夜間も睡眠の妨げにならない様に、一人ひとりに合わせた休息の支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤薬がないように、名前、用法、日付を記入し、一つずつ確認の上、職員が配薬し介助している。症状変化の時は看護師を通じ主治医の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔より、やっていた畑仕事、山菜処理、洋裁等をやって頂き達成感を味わって頂けるようにしているが、まだまだ出来る事があると思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、外気浴、畑仕事、近所の寺参り等に行き、地域の方との交流を持ち、外出の機会を持っている。個々には、家族の協力を得て、外出計画をしたりしている。	近隣周辺を、寺や神社の参拝を兼ねて、日常的に散歩している。体力に不安な人は、前庭で、外気浴を楽しんでいる。また、年間計画を立て、外食、バラ園、紅葉狩り、桜の花見などへ出かけている。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望、家族の同意を得て、五千円内の全額でお金を所持して頂き、安心につながっている。又、事業所管理のお金については、入居時に説明、合意してもらい毎月、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の状況に配慮しながら、電話、手紙、FAX等も利用しながら家族とやり取りが出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の靴箱には、名前を付け希望の場所を選んで混乱防止をしている。浴室、トイレ等は大きな文字にて見やすくしている。季節の花を飾り、季節の行事も積極的に行っている。	玄関が広々としており、地域で使用されていた思い出の農機具、畑で使用した機材が飾られている。職員と作り上げた刺し子、思い出の写真が飾れ、利用者の手作り花瓶に季節の花が飾られている。浴室、トイレなどは大きな文字で表示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は、入居者の働きにも考慮しながら月ごとに変わっている。ホール以外にも畳スペース、ソファ等気軽に休んでもらえる様整え、外にはベンチも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に注意を払った上で、使い慣れた物、大切な物、馴染みの物を持って来て頂ける様に説明している。本人が少しでも安らげる空間作りに努めている。	居室の窓からは、季節の移り変わりを眺めることができる。エアコン・ベッド・整理用の棚が用意されている。家族の写真、小鏡台など思い出の物が持ち込まれ、安らげる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りや声掛け誘導を徹底し、入居者の機能を維持出来る様にサポートに努めているが、介助しすぎない様、自立支援に取り組んでいる。		